

【 49-2 】 2026 年度 大学院シラバス

専攻分野/コース (英文名)	高度臨床医育成コース (外科学) (Training Course for Physicians with Professional Skills)
研究指導教員	民上 真也 縄田 寛 佐治 久 津川 浩一郎 古田 繁行 藤谷 茂樹
研究・教育の概略	【教育目標】 医の倫理を体得し、医療を適正に実践すべく一定の修練を経て、診断、手術および術前後の管理・処置・ケアなど一般外科医療に関する標準的な知識と技量を身につけることを目標とする。 【取得専門医】 外科学会専門医 【ローテーション】 大学院 1 年目、2 年目： 3 ヶ月を 1 クールとして、心臓血管外科、乳腺内分泌外科、小児外科、呼吸器外科、救急医学をそれぞれ 1 クール、消化器一般外科 3 クールローテーションする。それぞれの 3 ヶ月間で講義 2 単位、実習 1 単位を受講する。また、外科専門医取得に必要な手術経験をつむ。 ただし、大学院入学時にすでに外科学会専門医取得のための十分な経験のあるものに対しては、当該診療科のローテーションを免除し、別途プログラムを用意する。 大学院 3 年目、4 年目： 各人の希望する部門において、さらなる知識及び技量の習得に努め、外科学会専門医取得を目指すとともに、サブスペシャリティ専門医の取得を目指す。また、基礎的あるいは臨床的な研究を行い、学位取得をめざす。
研究項目	1. 上部・下部消化管、肝胆膵、各臓器の外科手術手技を習得する。 2. がん治療の最前線、終末期医療、疼痛コントロールを理解する。 3. 術前、術後の栄養管理、SSI 全般にわたる最新の EBM を学習する。 4. 心臓外科では開心術における補助循環の原理と実践を習得する。 5. 呼吸器外科では呼吸器循環の病態生理を習得する。 6. 小児外科、乳腺・内分泌外科では、それぞれの基本的な診断学を理解する。 7. 救急・集中治療領域からは、外傷はじめ手術も生体侵襲であり、これに対する生体防御反応である炎症について学ぶ。炎症反応は本来生体防御機構であり、この平衡の乱れが生体にさらなる侵襲を与え、重症化させる要因となる。
準備学習(予習・復習)	標準外科学、がん疼痛緩和ケア Q&A、心臓血管外科管理ハンドブック、呼吸器外科学、系統小児外科学、乳がん診断ガイドラインなどを参照し、参考資料に目を通し、講義後は配布資料で復習をおこなう。

2026 年度講義シラバス（１）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅠ		必修/選択	必修	
担当教員	民上 真也	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	2 単位（3ヶ月・7・8・9 月）	履修年次	1年・2 年		
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。				
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。				
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿った EBM を習熟する。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	消化器外科手術に必要な解剖、病理、画像診断を理解し説明できる。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	消化器一般外科診断学総論		1		
2	腹壁外科（1）		2		
3	腹壁外科（2）		3		
4	上部消化管疾患診断学総論		4		
5	上部消化管疾患診断学各論（1）		5		
6	上部消化管疾患診断学各論（2）		6		
7	食道癌外科治療学（1）		7		
8	食道癌外科治療学（2）		8		
9	胃癌外科治療学各論（1）		9		
10	胃癌外科治療学各論（2）		10		
11	消化器一般外科診断学・治療学総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（2）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅡ		必修/選択	必修
担当教員	内藤 正規	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2 単位（3ヶ月・10・11・12 月）	履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。			
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。			
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿った EBM を習熟する。			
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1 時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	患者の状態(合併症の有無、サルコペニア等)を考慮し生理学的に全身状態を理解し、説明できる。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	消化管外科診断学総論
2			2	下部消化管疾患診断学総論
3			3	下部消化管疾患診断学各論（1）
4			4	下部消化管疾患診断学各論（2）
5			5	下部消化管疾患外科治療学総論
6			6	下部消化管疾患外科治療学（1）
7			7	下部消化管疾患外科治療学（2）
8			8	後腹膜臓器疾患診断学総論
9			9	後腹膜臓器疾患診断学各論
10			10	後腹膜臓器疾患外科治療学各論
11			11	脾疾患治療学
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（3）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	消化器・一般外科クリニカルラーニングⅢ		必修/選択	必修
担当教員	小林 慎二郎	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	2 単位（3ヶ月・1・2・3 月）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	主に消化器一般外科の症例を検討し、画像診断、治療方針、手術等について学習する。			
講義計画	各種消化器一般外科の臨床画像診断、治療法を解説する。			
達成目標	各種消化器一般外科疾患に関して、特に消化器悪性疾患の診療ガイドラインに沿った EBM を習熟する。			
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	患者および家族の置かれた社会的側面を理解し、十分なインフォームドコンセントができる。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席㊥)	後期(回)	内 容 (出席㊥)
1			1	肝疾患診断学（1）
2			2	肝疾患診断学（2）
3			3	肝疾患外科治療学（1）
4			4	肝疾患外科治療学（2）
5			5	胆道疾患診断学
6			6	胆道疾患外科治療学（1）
7			7	胆道疾患外科治療学（2）
8			8	膵疾患診断学
9			9	膵疾患外科治療学（1）
10			10	膵疾患外科治療学（2）
11			11	消化器外科診断治療学総括
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（４）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	消化器・一般外科（上部）手術スキル実習（１）		必修/選択	必修	
担当教員	榎本 武治	担当教員連絡先	内線 3213		
単位数	1単位（3ヶ月・7・8・9月）	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	消化器一般外科手術の専門手術手技を実習する。				
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。				
達成目標	上部消化管・一般外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。				
教科書・参考書	標準外科学（医学書院、2016、第 14 版）				
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間				
成績評価法	出席と最終実技試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	食道・胃手術(開腹・鏡視下手術)の手順を理解し簡単な手技が行える。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容	(出席◎)
1	腹壁外科手術手技実習		1		
2	食道癌手術手技ビデオ研修		2		
3	開胸開腹食道癌手術手技実習（１）		3		
4	開胸開腹食道癌手術手技実習（２）		4		
5	胃癌幽門側胃切除手術ビデオ研修		5		
6	胃癌胃全摘術ビデオ研修		6		
7	胃癌手術手技スキル実習（１）		7		
8	胃癌手術手技スキル実習（２）		8		
9	腹腔鏡補助下胃癌手術ビデオ研修		9		
10	腹腔鏡補助下幽門側胃切除術手術実習		10		
11	手術手技総括		11		
12	試験、評価		12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（5）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	消化器・一般外科（下部）手術スキル実習（2）		必修/選択	必修
担当教員	民上 真也	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（3ヶ月・10・11・12月）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	下部消化管外科、脾臓・後腹膜臓器の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	下部消化管外科解剖の理解と低難度から高難度の手術手技理解。			
教科書・参考書	大腸外科の最前線（永井書店）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	大腸手術（開腹・鏡視下手術）の手順を理解し簡単な手技が行える。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	結腸癌切除術手術手技ビデオ研修
2			2	直腸癌切除術手術手技ビデオ研修
3			3	右結腸切除術手術手技実習
4			4	横行結腸切除術手術手技実習
5			5	左結腸切除術手術手技実習
6			6	S 状結腸切除術手術手技実習
7			7	高位前方切除術手術手技実習
8			8	低位前方切除術手術手技実習
9			9	直腸切断術手術手技実習
10			10	後腹膜臓器手術手技実習
11			11	手術手技総括
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（6）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	消化器・一般外科 手術スキル実習（3）		必修/選択	必修
担当教員	小泉 哲	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（3ヶ月・1・2・3月）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	肝胆膵外科手術の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	肝胆膵外科解剖の理解と低難度から高難度の肝胆膵外科手術手技の理解。			
教科書・参考書	肝臓外科、胆道外科、膵外科の要点と盲点（文光堂）			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	簡単膵手術(開腹・鏡視下手術)の手順を理解し簡単な手技が行える。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容
1			1	肝切除手術手技ビデオ研修
2			2	胆道手術手術手技ビデオ研修
3			3	膵手術手術手技ビデオ研修
4			4	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習（1）
5			5	腹腔鏡下胆嚢摘出術手術手技実習（2）
6			6	肝癌肝亜区域、区域切除手術手技実習
7			7	肝癌肝葉切除手術手技実習
8			8	胆管癌拡大葉切除手術手技実習
9			9	膵頭十二指腸切除手技実習（1）
10			10	膵頭十二指腸切除手技実習（2）
11			11	手術手技総括
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（7）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	心臓血管外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	縄田 寛	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	2単位（3ヶ月・10・11・12月）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	心臓血管外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。			
講義計画	心臓血管外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。			
達成目標	心臓血管外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。			
教科書・参考書	新心臓血管外科テキスト 中外医学社 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	心臓血管外科クリニカルラーニングを通して、自身の研究を遂行する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	心臓血管外科診断学総論
2			2	虚血性心疾患診断学各論
3			3	虚血性心疾患病態学各論
4			4	虚血性心疾患治療学各論（1）
5			5	虚血性心疾患治療学各論（2）
6			6	虚血性心疾患治療学各論（3）
7			7	弁膜症疾患診断学各論
8			8	弁膜症疾患病態学各論
9			9	先天性心疾患診断学各論
10			10	胸部大動脈疾患診断学各論
11			11	腹部大動脈疾患診断学各論
12			12	閉塞性動脈硬化症診断学各論
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（8）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	心臓血管外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	縄田 寛	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	1 単位（3ヶ月・10・11・12月）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	心臓血管外科の専門手術手技を実習する。			
講義計画	手術書、ビデオによる手術手技の解説とシミュレーターを用いた手術手技の実習。			
達成目標	まず、心臓血管外科の基本的手術手技を熟知する。その後、各疾患の特殊な手術主義に関して習得する。			
教科書・参考書	新心臓血管外科テキスト 中外医学社 心臓血管外科手術のための解剖学 MEDICAL VIEW			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	心臓血管外科手術スキル実習を通して、自身の研究を遂行する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	心臓到達法（1）
2			2	心臓到達法（2）
3			3	心臓到達法（3）
4			4	心臓到達法（4）
5			5	開胸法（1）
6			6	開胸法（2）
7			7	開胸法（3）
8			8	開胸法（4）
9			9	人工心肺装着術（1）
10			10	人工心肺装着術（2）
11			11	人工心肺装着術（3）
12			12	人工心肺装着術（4）
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（9）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	呼吸器外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	佐治 久	担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2単位（3ヶ月・1・2・3月）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	呼吸器外科の手術症例を中心に検討を行い、病態、画像診断、手術適応、治療方針、術前術後管理などについて学習する。			
講義計画	呼吸器外科疾患の病態、画像診断、治療法に関して解説する。			
達成目標	呼吸器外科疾患の病態を理解し、適切な画像診断を選択して読影できるようになる。さらに、治療方針、手術適応、術前術後管理を習得する。			
教科書・参考書	呼吸器外科学（改訂4版、南山堂）			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	呼吸器外科関連疾患に関する最新の知識に基づき治療マネジメントを考える過程で Clinical Question, Unmet need を見つけ今後の研究の目的を見つける。			
講義内容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	呼吸器外科診断学総論
2			2	呼吸器外科疾患診断学各論（1）
3			3	呼吸器外科疾患診断学各論（2）
4			4	呼吸器外科疾患診断学各論（3）
5			5	呼吸器外科疾患診断学各論（4）
6			6	呼吸器外科疾患治療学総論
7			7	呼吸器外科疾患治療学各論（1）
8			8	呼吸器外科疾患治療学各論（2）
9			9	呼吸器外科疾患治療学各論（3）
10			10	呼吸器外科疾患治療学各論（4）
11			11	呼吸器外科疾患治療学各論（5）
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（１０）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	呼吸器外科手術スキル実習		必修/選択	必修
担当教員	小島 宏司	担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	1 単位（3ヶ月・1・2・3月）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	呼吸器外科の専門手術手技を実習する。			
講義計画	専門講師による手術手技実習指導。			
達成目標	呼吸器外科の基本的手術手技と各疾患の特殊な手術手技の習得。			
教科書・参考書	呼吸器外科学（改訂 4 版、南山堂）			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間			
成績評価法	出席と最終実技試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	呼吸器外科領域の基本的手術手技の習得を通じて、新しい術式を考えるきっかけと目を養う。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1			1	呼吸器外科手術手技実習（1）
2			2	呼吸器外科手術手技実習（2）
3			3	自然気胸手術手技ビデオ研修
4			4	開胸下自然気胸手術手技実習
5			5	胸腔鏡下自然気胸手術手技実習
6			6	肺癌手術手技ビデオ研修
7			7	肺癌手術手技研修（1）
8			8	肺癌手術手技研修（2）
9			9	肺癌手術手技研修（3）
10			10	縦隔腫瘍手術手技研修
11			11	手術手技総括
12			12	試験、評価
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（１１）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	小児外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修
担当教員	古田 繁行	担当教員連絡先	3222	
単位数	2 単位 （3ヶ月・4、5、6 月）	履修年次	1 年・2 年	
テーマと目的	小児外科疾患に対する症例検討を中心に、画像診断、手術適応、治療方針についてプレゼンテーションできることを目的とする。			
講義計画	実際の臨床例を基に、代表的な小児外科疾患に関して、診察から鑑別疾患を列挙し、診断・治療計画を立て、わかりやすいプレゼンテーションができるようにする。			
達成目標	代表的な小児外科疾患の診察、画像診断、手術適応を含めた治療方針が立てられるようにする。			
教科書・参考書	標準小児外科学（医学書院）			
準備学習(予習・復習・時間)	胎児・小児の成長や発達について学び、新生児・乳幼児・学童の診察ができるよう学習する。 1 時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	発生学を学ぶことで小児外科疾患の治療時期や手術方法が述べられるようにする能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容 (出席@)
1	胎児診断と発生（1）		1	
2	腎・尿路の発生（1）		2	
3	消化管の発生（1）		3	
4	新生児の消化管奇形基本手術（1）		4	
5	新生児の消化管奇形基本手術（2）		5	
6	小児癌の外科手術手技（1）		6	
7	小児癌の外科手術手技（2）		7	
8	小児腹痛疾患の診断（1）		8	
9	小児腹痛疾患の診断（2）		9	
10	胎児外科手術の基本（1）		10	
11	胎児外科手術の基本（2）		11	
12	胎児外科手術の基本（3）		12	
13			13	
14			14	
15			15	

2026 年度講義シラバス（１２）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	小児外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	古田 繁行	担当教員連絡先	3222		
単位数	1 単位（3ヶ月・4・5・6 月）	履修年次	1 年・2年		
テーマと目的	小児特有の手術のビデオ研修				
講義計画	1. ビデオライブラリーから借用した小児外科疾患の手術ビデオ供覧 2. 小児腹腔鏡手術手技の基礎				
達成目標	小児外科特有の疾患の手術方法の理解				
教科書・参考書	スタンダード小児外科手術(メディカルビュー社) スタンダード小児内視鏡外科手術(メディカルビュー社)				
準備学習(予習・復習・時間)	ドライラボにて内視鏡で縫合ができるようにする。 1 時間				
成績評価法	出席と最終試験				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	手術ビデオから、手術部位の局所解剖の知識を習得し、わかりやすい手術記録を残す能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	頭頸部疾患の手術（1）		1		
2	頭頸部疾患の手術（2）		2		
3	新生児手術の基本（1）		3		
4	新生児手術の基本（2）		4		
5	肝胆道の手術（1）		5		
6	肝胆道の手術（2）		6		
7	直腸。肛門疾患（1）		7		
8	直腸。肛門疾患（2）		8		
9	小児鏡視下手術の基本（1）		9		
10	小児鏡視下手術の基本（2）		10		
11	小児鏡視下手術の応用（1）		11		
12	小児鏡視下手術の応用（2）		12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（１３）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	乳腺内分泌外科クリニカルラーニング		必修/選択	必修	
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223		
単位数	2単位（3ヶ月・7・8・9月）	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の診療を理解する				
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して診断学を理解し、管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断について、論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺の診断に基づいた治療計画を策定できる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date（学内からオンラインにて検索可能）を参照 1時間				
成績評価法	出席と講義内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳腺内分泌外科領域の臨床における最新情報を理解し、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する。				
講 義 内 容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	乳腺・甲状腺の解剖		1		
2	ホルモンと乳腺の関連		2		
3	乳癌の疫学		3		
4	乳腺・甲状腺疾患の視触診		4		
5	乳腺疾患の画像診断		5		
6	甲状腺・副甲状腺疾患の画像診断		6		
7	転移性乳癌の画像診断		7		
8	乳腺疾患の組織診断		8		
9	甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断		9		
10	良性乳腺疾患の外科治療		10		
11	乳癌の外科治療		11		
12	甲状腺・副甲状腺疾患の外科治療		12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（14）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）		
講義題目	乳腺内分泌外科手術スキル実習		必修/選択	必修	
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223		
単位数	1単位（3ヶ月・7・8・9月）	履修年次	1年・2年		
テーマと目的	症例に基づいて基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の外科療法を理解する				
講義計画	種々の基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺症例を通して外科療法を理解し、管理方法を検討する。				
達成目標	1. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患について、外科療法を論理的に説明できる 2. 基本的な乳腺・甲状腺・副甲状腺疾患の組織診断と外科手技を行うことができる				
教科書・参考書	別途指示				
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間				
成績評価法	出席と実習内での発表および受講態度による総合評価				
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳腺内分泌外科領域の標準的な診断手技および手術について実践する能力を習得する。				
講義内容					
前期(回)	内 容	(出席@)	後期(回)	内 容	(出席@)
1	乳腺疾患の穿刺細胞診		1		
2	乳腺疾患の針生検		2		
3	乳腺疾患のマンモトーム生検		3		
4	乳腺疾患の外科生検		4		
5	良性乳腺疾患の手術（1）		5		
6	良性乳腺疾患の手術（2）		6		
7	乳癌の手術－乳房温存術（1）		7		
8	乳癌の手術－乳房温存術（2）		8		
9	乳癌の手術－乳房切除術（1）		9		
10	乳癌の手術－乳房切除術（2）		10		
11	乳癌のリンパ節郭清		11		
12	甲状腺良性腫瘍の手術		12		
13			13		
14			14		
15			15		

2026 年度講義シラバス（１５）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	疼痛コントロール		必修/選択	選択
担当教員	内藤 正規	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（前期1）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	疼痛緩和ケアの臨床。			
講義計画	疼痛ケアに関する臨床基礎知識の学習と疼痛ケア回診とカンファレンス、そして、学内外講師による講義。			
達成目標	疼痛ケアの EBM を学習し習熟する。			
教科書・参考書	がん疼痛緩和ケア Q&A—効果的な薬物治療・QOL の向上をめざして(じほう出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	疼痛ケアに関する基礎知識を学び、臨床の現場で充分に活用できる能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	がん疼痛緩和ケア概論		1	
2	末期がん医療の実際		2	
3	WHO 方式がん疼痛治療法		3	
4	がん患者の治療に伴う副作用の軽減と症状コントロール		4	
5	疼痛患者の精神的サポート		5	
6	がん告知における医療サポート		6	
7	疼痛緩和と消炎鎮痛剤		7	
8	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の役割		8	
9	疼痛緩和におけるオピオイド製剤の適正使用法		9	
10	疼痛緩和における地域医療連携室の役割		10	
11	在宅・緩和病棟の役割とホスピスへのコーディネート		11	
12	疼痛に伴う精神症状の臨床		12	
13	オピオイド製剤の副作用対策		13	
14	がん疼痛緩和ケア総括		14	
15	発表、討論、評価		15	

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	Nutrition Support クリニカルラーニング		必修/選択	選択
担当教員	民上 真也	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1単位（前期1）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	Nutrition support の最新の EBM の学習。			
講義計画	Nutrition support team の回診と学内外の専門講師による講義。			
達成目標	Nutrition support の最新知見を習熟し、臨床にて実践できることを目標とする。			
教科書・参考書	標準外科学(医学書院)			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、講義内での発表の評価、試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	NST の活動状況を理解し、臨床応用を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席@)		後期(回)	内 容 (出席@)
1	Nutrition support 総論		1	
2	褥瘡治療・予防における NST 活動とその効果		2	
3	周術期管理における NST 活動		3	
4	身体機能回復に対する NST 活動の有用性		4	
5	救急医療と NST		5	
6	Intensive insulin therapy “IIT”の臨床成績		6	
7	Immunonutrients の作用機序、臨床効果		7	
8	栄養ケアにおけるベッドサイドのモニタリング		8	
9	静脈・経腸栄養法のモニタリングのポイント		9	
10	栄養管理実施加算について		10	
11	絶食患者におけるビタミン非添加末梢静脈栄養時の血中水溶性ビタミン濃度の変化		11	
12	NST のアウトカム評価		12	
13	感染対策としての NST 活動の意義		13	
14	呼吸障害に対する NST 活動とその効果		14	
15	総括、試験		15	

2026 年度講義シラバス（17）

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	Infection Control Team Conference		必修/選択	選択
担当教員	榎本 武治	担当教員連絡先	内線 3213	
単位数	1 単位（前期 1）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	Surgical site infection コントロール全般にわたる最新の EBM の学習。			
講義計画	Surgical site infection コントロールチーム回診カンファレンスと学内外講師による講義。			
達成目標	Surgical site infection コントロール全般の EBM を学習し習熟する。			
教科書・参考書	別途指示			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席、総合討論、発表			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	外科感染症における手術部位感染 (SSI) の基本、並びに臨床での実際を理解し、説明できる。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席Ⓢ)		後期(回)	内 容 (出席Ⓢ)
1	SSI 総論		1	
2	耐性菌対策に向けた周術期抗菌薬使用		2	
3	Surgical site infection (SSI) に対する創縁保護用ドレープの有用性		3	
4	『食道癌切除術症例に対する術前 immunonutrition に関する検討		4	
5	術後感染減少を目指した胃癌手術における材料と手技の工夫		5	
6	術後感染対策としての免疫増強栄養法術前投与の重要性		6	
7	大腸癌手術における創縁保護具 (wound retractor) の SSI 予防効果		7	
8	下部消化管穿孔術後の重症感染症の検討		8	
9	尾側膵切除術における予防的抗生剤投与に関する検討		9	
10	『胆道再建術後、肝切除術を試行した症例の SSI に関する検討		10	
11	予防的抗菌薬術前術中投与法による胃癌手術の SSI		11	
12	開心術後に生じた縦隔洞炎の治療と起因菌について		12	
13	肺全摘術後膿胸への対処法		13	
14	SSI 総括		14	
15	試験、評価		15	

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	人工心肺、補助循環特論		必修/選択	選択
担当教員	島田 勝利	担当教員連絡先	内線 3230	
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	開心術の基本補助手段の人工心肺の原理、実践法を習得する。循環の種々の補助手段を理解する。			
講義計画	人工心肺の基礎から説明し、臨床の実際を解説する。補助循環も詳細に説明する。			
達成目標	人工心肺の原理を理解し、実際の臨床での使用法を習得する。人工心肺のトラブル対応法も理解する。種々の循環の補助手段を習得する。			
教科書・参考書	新 心臓血管外科管理ハンドブック 南江堂			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書等を参考に学習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	人工心肺の基礎を理解し、臨床応用法を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容	(出席◎)	後期(回)	内 容 (出席◎)
1	人工心肺法総論（1）		1	常温体外循環法各論（1）
2	人工心肺法総論（2）		2	常温体外循環法各論（2）
3	人工心肺法総論（3）		3	常温体外循環法各論（3）
4	人工心肺法総論（4）		4	常温体外循環法各論（4）
5	心筋保護法各論（1）		5	低体温循環停止法各論（1）
6	心筋保護法各論（2）		6	低体温循環停止法各論（2）
7	心筋保護法各論（3）		7	低体温循環停止法各論（3）
8	心筋保護法各論（4）		8	低体温循環停止法各論（4）
9	脳分離体外循環法各論（1）		9	逆行性脳還流法各論（1）
10	脳分離体外循環法各論（2）		10	逆行性脳還流法各論（2）
11	IABP 法各論（1）		11	逆行性脳還流法各論（3）
12	IABP 法各論（2）		12	LVAD 各論（1）
13	PCPS 各論（1）		13	LVAD 各論（2）
14	PCPS 各論（2）		14	人工心臓各論（1）
15	PCPS 各論（3）		15	人工心臓各論（2）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	呼吸器外科 診断実習		必修/選択	選択
担当教員	丸島 秀樹	担当教員連絡先	内線 3336	
単位数	2 単位（前期 1・後期 1）	履修年次	1年・2 年	
テーマと目的	呼吸器疾患診断手技実習として気管支鏡、胸部超音波検査を習得する。			
講義計画	内視鏡専門医による技術指導と実習			
達成目標	内視鏡手技、胸部超音波検査を習得し、呼吸器診断学を学習する。			
教科書・参考書	気管支鏡 第 2 版 日本呼吸器内視鏡学会編（医学書院）			
準備学習(予習・復習・時間)	教科書の指定する範囲をあらかじめ予習し、講義後は自宅で復習する。 1時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	周術期に必要な気管支鏡、胸部超音波検査方法を理解することにより、医工連携を通じて新しい医療機器の開発へつながる Seeds を見つける。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	呼吸器の解剖		1	院内感染防止
2	呼吸器の生理		2	気管支鏡実習（1）
3	気管支の命名法と肺区域		3	気管支鏡実習（2）
4	気管支壁の構造		4	気管支鏡実習（3）
5	気管支鏡検査の目的		5	気管支鏡実習（4）
6	気道の局所麻酔法		6	気管支鏡実習（5）
7	気管支観察法		7	気管支鏡実習（6）
8	気管支壁病変の生検法		8	気管支鏡実習（7）
9	経気管支肺生検の目的		9	気管支鏡実習（8）
10	経気管支肺生検の方法		10	胸部超音波実習（1）
11	経気管支肺生検の合併症		11	胸部超音波実習（2）
12	超音波気管支鏡の原理		12	胸部超音波実習（3）
13	超音波気管支鏡の方法		13	胸部超音波実習（4）
14	気管支鏡検査と炎症		14	胸部超音波実習（5）
15	気管支鏡検査と腫瘍		15	気管支鏡、超音波実技評価

2026 年度講義シラバス（20）

講義コード	※	専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	乳癌の診断・治療計画		必修/選択	選択
担当教員	津川 浩一郎	担当教員連絡先	内線 3223	
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	乳癌の診断と治療方針の選択・決定までを修得する。			
講義計画	乳癌専門医による講義と実習。診断から治療方針の選択・決定までの流れを実際の症例を通して計画・実行する。			
達成目標	乳癌の診断から標準治療計画の立案。			
教科書・参考書	科学的根拠に基づく乳癌診断ガイドライン 1-5 金原出版			
準備学習(予習・復習・時間)	Up To Date(学内からオンラインにて検索可能)を参照 1時間			
成績評価法	出席と発表・討論			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	乳癌診療における標準治療を理解し、実践する能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	乳癌の画像診断 マンモグラフィ		1	乳癌術式の選択
2	乳癌の画像診断 超音波		2	薬物療法の選択
3	乳癌の画像診断 CT		3	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 1
4	乳癌の画像診断 MRI		4	乳癌内分泌療法の選択とレジメン 2
5	乳癌の組織診断 針生検・マンモトーム		5	乳癌化学療法の選択とレジメン 1
6	乳癌の治療計画 1		6	乳癌化学療法の選択とレジメン 2
7	乳癌の治療計画 2		7	乳癌化学療法(分子標的学)の選択とレジメン
8	乳癌の治療計画 3		8	術前化学療法の適応とレジメン
9	乳癌のステージング 1		9	術前内分泌療法の適応とレジメン
10	乳癌のステージング 2		10	術前薬物療法の効果判定 1
11	乳癌のサブタイプ 1		11	術前薬物療法の効果判定 2
12	乳癌のサブタイプ 2		12	術後薬物療法の適応と選択 1
13	乳癌の転移診断 1		13	術後薬物療法の適応と選択 2
14	乳癌の転移診断 2		14	転移乳癌の治療選択 1
15	乳癌の転移診断 3		15	転移乳癌の治療選択 2

講義コード		専攻分野	高度臨床医育成コース（外科学）	
講義題目	小児がん治療の最前線～キメラ抗原受容体 (CAR)-T 細胞療法について～		必修/選択	選択
担当教員	古田 繁行	担当教員連絡先	3222	
単位数	2単位（前期 2）	履修年次	1 年・2年	
テーマと目的	現在おこなわれている CAR-T 細胞治療について学ぶ			
講義計画	CAR-T 細胞治療の歴史と開発への道のりに関して、学外講師による講義をおこなう。			
達成目標	血液腫瘍での有効性から、固形腫瘍への研究接点をみいだす。			
教科書・参考書	別冊医学のあゆみ CAR-T 細胞療法の現在と将来展望(医歯薬出版)			
準備学習(予習・復習・時間)	がん免疫治療の種類を理解する。1 時間			
成績評価法	出席と最終試験			
卒業認定・学位授与の方針との関連性	がん治療の現状を理解し、固形腫瘍の特徴に基づいたがん免疫治療の実験を遂行できる能力を習得する。			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席⑩)		後期(回)	内 容 (出席⑩)
1	小児がんの疫学		1	
2	小児血液腫瘍の発生メカニズム 1		2	
3	小児血液腫瘍の発生メカニズム 2		3	
4	小児固形腫瘍の発生メカニズム 1		4	
5	小児固形腫瘍の発生メカニズム 2		5	
6	小児悪性腫瘍の診断 1		6	
7	小児悪性腫瘍の診断 2		7	
8	小児悪性腫瘍の化学療法 1		8	
9	小児悪性腫瘍の化学療法 2		9	
10	小児悪性腫瘍の放射線治療 1		10	
11	小児悪性腫瘍の放射線治療 2		11	
12	小児悪性腫瘍の手術 1		12	
13	小児悪性腫瘍の手術 2		13	
14	がん免疫治療 1		14	
15	がん免疫治療 2		15	

講義コード	※	専攻分野	救急医学	
講義題目	救急・集中治療における生体防御と Critical Care の実際		必修/選択	選択
担当教員	森澤 健一郎	担当教員連絡先	内線 3931	
単位数	2単位（前期1、後期1）	履修年次	1年・2年	
テーマと目的	生体侵襲学について学び、その対処法を実践できるようにする。			
講義計画	座学と実習			
達成目標	生体侵襲の基礎を学び、その対処として臨床実践を可能とする。 心肺蘇生法として BLS、ACLS を理解し実践できる。			
教科書・参考書	救急診療指針 へるす出版 集中治療専門医テキスト 日本集中治療医学会			
準備学習(予習・復習・時間)	事前に参考資料に目を通す。講義後は、配布資料により復習を行う。 1時間			
成績評価法	出席と討論・討議			
卒業認定・学位授与 の方針との関連性	救急医学の最新の知見に基づいて、自身の研究を遂行し論述する能力を習得する			
講 義 内 容				
前期(回)	内 容 (出席◎)		後期(回)	内 容 (出席◎)
1	侵襲学		1	外傷外科と ACS (acute care surgery) Acute care
2	生体反応(炎症反応)、生体反応のバランスの崩れ		2	Acute care surgery 総論
3	炎症反応の基本的病態, humoral mediator, cytokine		3	ACS：外傷外科 Trauma surgery
4	心肺蘇生法 BLS, ACLS		4	ACS：救急外科 Emergency surgery
5	外傷総論		5	ACS：外科的集中治療 Surgical critical care
6	外傷初期治療, ATLS		6	damage control surgery
7	腹部外傷、胸部外傷、骨盤・四肢外傷、頭部外傷		7	damage control resuscitation
8	重症病態、ショック		8	non – operative management
9	ショック 各論, 治療 血液分布異常性ショック 循環血液量減少性ショック, 心原生ショック		9	ACS における消化管・栄養管理
10	重症病態における各種モニタリング		10	ACS における循環・呼吸管理
11	各種臓器機能補助装置 (PCPS , ECMO , CHDF, IABP など)		11	ACS における内分泌・神経系管理
12	特殊感染症		12	Trauma surgery と General surgery
13	ARDS 管理		13	神経系集中治療
14	遠隔 ICU		14	心臓血管外科的術後管理
15	遠隔救急		15	ドクターカー運用